
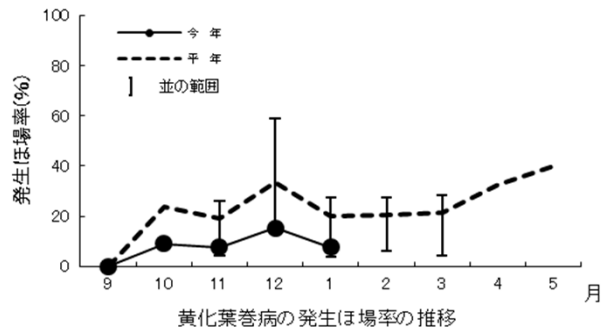
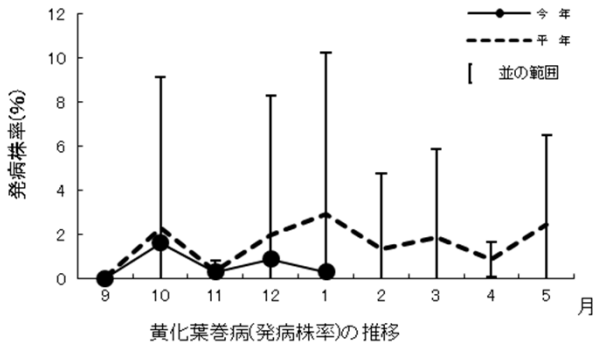


作物	トマト	地域	沖縄群島
病害虫名	① 黄化葉巻病		
1月の発生量（現況）	並		
2月の増減傾向	→		
増減傾向の根拠	媒介虫のタバココナジラミが1月と同程度の発生であることから、1月と同程度の発生量であると考えられる。		

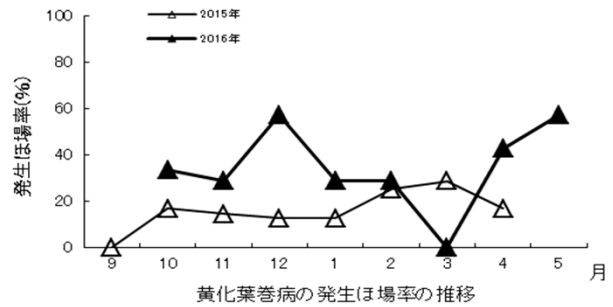
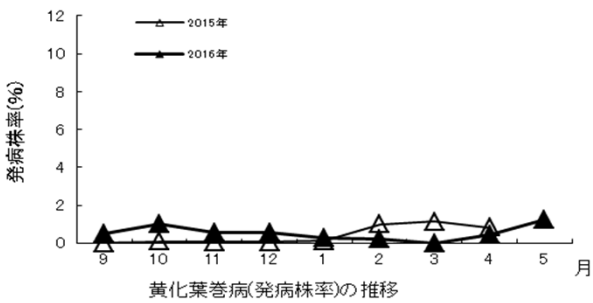
発生量の根拠（調査結果）

- ・ 1月下旬の調査の結果、発病株率は0.3%（前年0.3%、平年2.9%）と平年並で、発生ほ場率は7.7%（前年28.6%、平年20%）と平年並であった。

（今年のデータ）




（過去2年のデータ）



防除のポイント

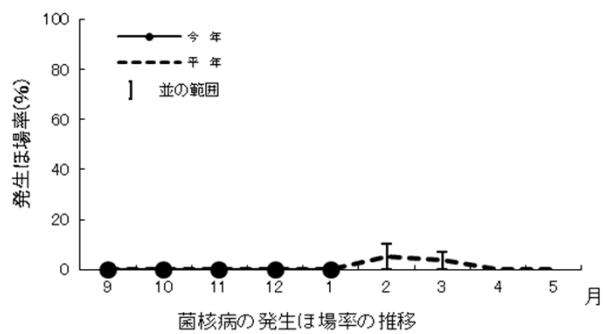
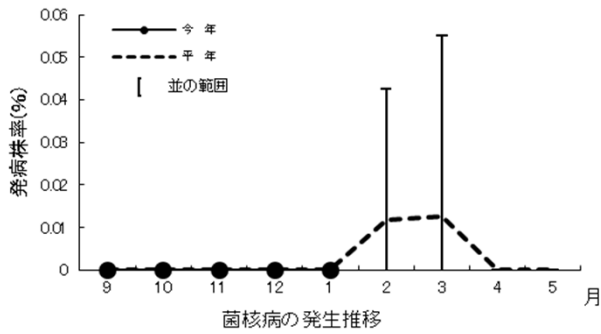
- ・ 本病はタバココナジラミによって媒介されるウイルス病である。
- ・ 感染した株は伝染源となるため、疑わしい株も含め早急に抜き取る。
- ・ 感染株及び摘葉残さは、施設外に持ち出し必ずビニール袋に入れて密閉処分する。

作物	トマト	地域	沖縄群島
病害虫名	② 菌核病		
1月の発生量（現況）	(発生なし) 並		
2月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	発病株率の平年の発生推移から、1月より発生量は増加すると考えられる。		

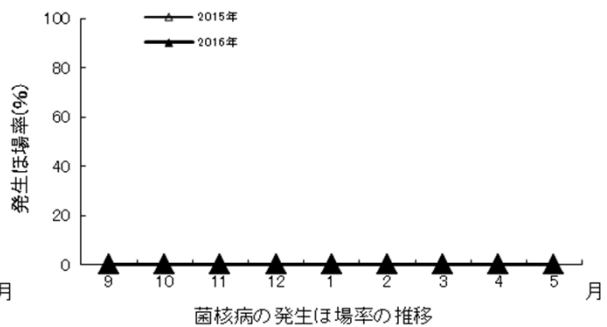
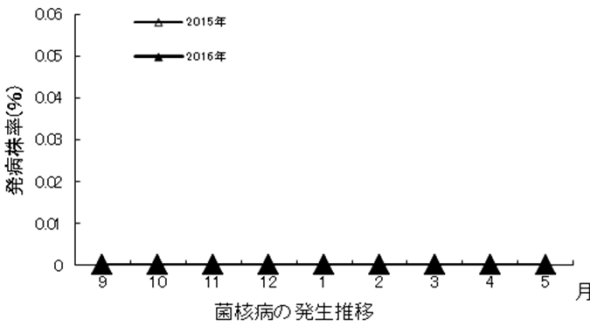
発生量の根拠（調査結果）

- ・ 1月下旬の調査の結果、発病株率は0%（前年0%、平年0%）と平年並であった。

(今年のデータ)




(過去2年のデータ)



防除のポイント

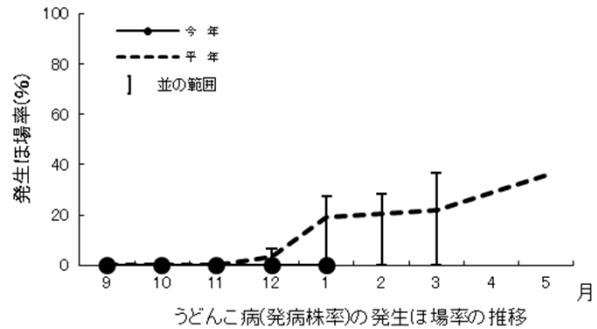
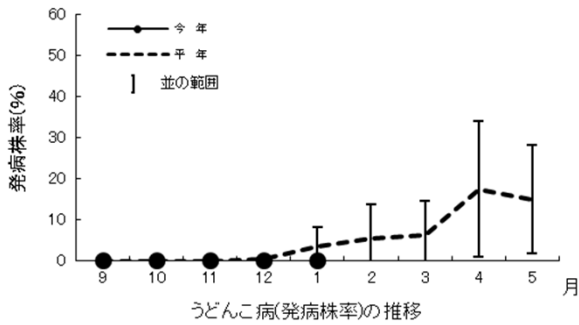
- ・ 発病部位は、菌核が形成される前に早めに除去し、施設外に持ち出しビニール袋に入れて密閉処分する。
- ・ 多湿条件下で発生しやすいので、換気を十分に行い多湿にならないようにする。
- ・ 発生しやすい時期なので、薬剤による防除に努める。

作物	トマト	地域	沖縄群島
病害虫名	③ うどんこ病		
1月の発生量(現況)	(発生なし)並		
2月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	発病株率の平年の発生推移から、1月より発生量は増加すると考えられる。		

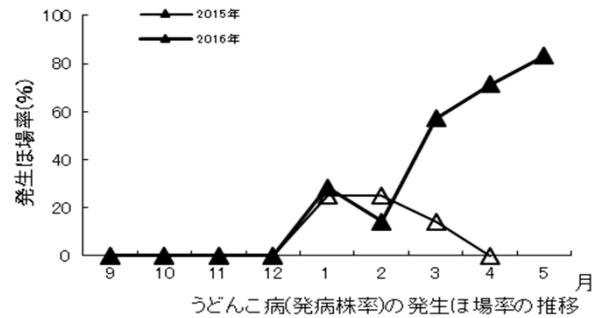
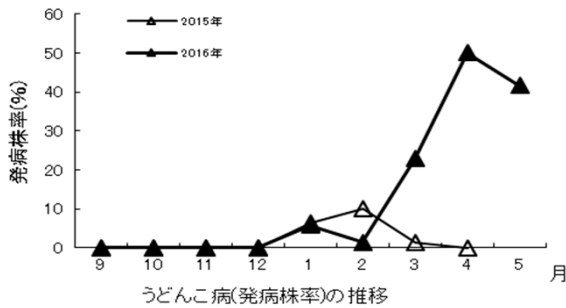
発生量の根拠(調査結果)

- ・ 1月下旬の調査の結果、発病株率は0% (前年0%、平年3.5%) と平年並であった。

(今年のデータ)



(過去2年のデータ)



防除のポイント

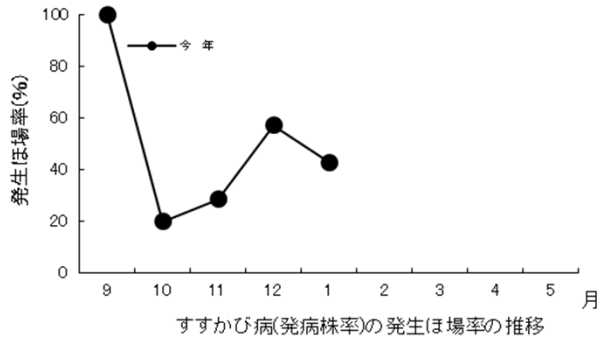
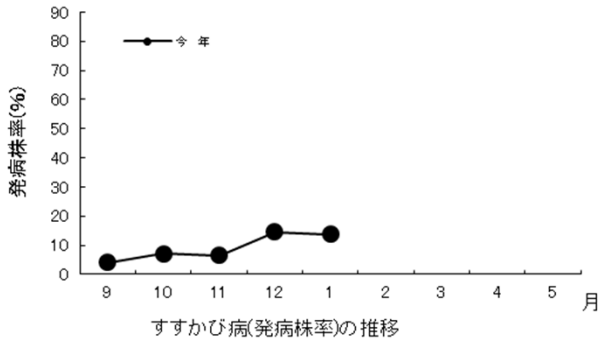
- ・ 通風が悪いときに多発生しやすいので、老葉や病葉を除去し、透光通風を良くする。
- ・ 多湿条件で発生し、その後乾燥が続くと被害が拡大するため、湿度管理に注意する。
- ・ 今後、発生が増加すると考えられるので防除を徹底する。
- ・ 多発すると防除が困難となるので、葉をよく観察し早期発見・防除に努める。

作物	トマト	地域	沖縄群島
病害虫名	すすかび病		
1月の発生量(現況)	判定不可		
2月の増減傾向			
増減傾向の根拠	データ蓄積不足のため、判定保留。		

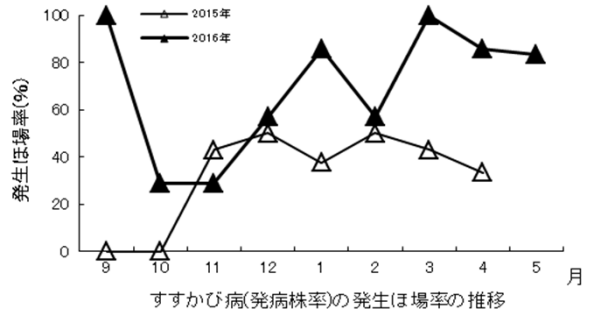
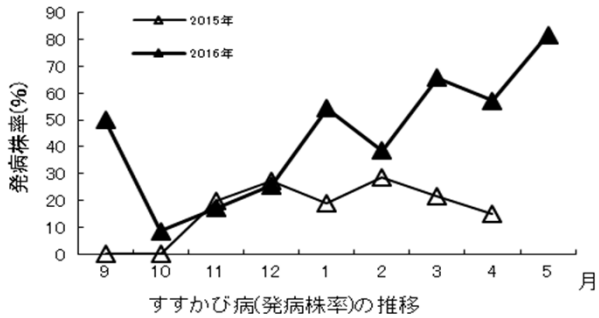
発生量の根拠(調査結果)

- ・ 1月下旬の調査の結果、発病株率は14.6%(前年25.7%)であった。

(今年のデータ)




(過去2年のデータ)



防除のポイント

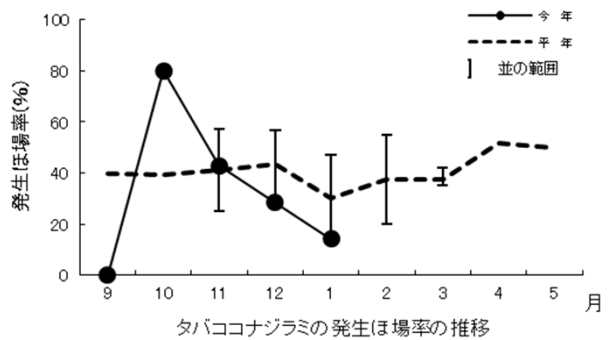
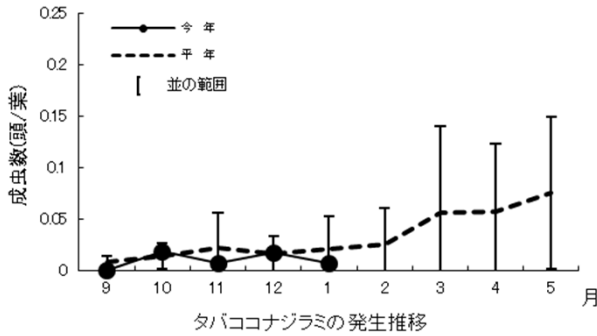
- ・ 多発すると防除が困難になるので、予防散布を徹底し、感染の拡大を防ぐ。
- ・ 多湿条件や密植、過繁茂で発生しやすいため、排水や換気を良くする。
- ・ 発生源となる不要な老葉、下葉は除去し、透光通風をよくする。
- ・ 除去した葉は放置せず、施設外に持ち出し処分する。
- ・ 薬剤耐性を発達させる可能性があるため、同系統薬剤の連用を避ける。

作物	トマト	地域	沖縄群島
病害虫名	④ タバココナジラミ		
1月の発生量（現況）	並		
2月の増減傾向	→		
増減傾向の根拠	成虫数の平年の発生推移から、1月と同程度の発生量と考えられる。		

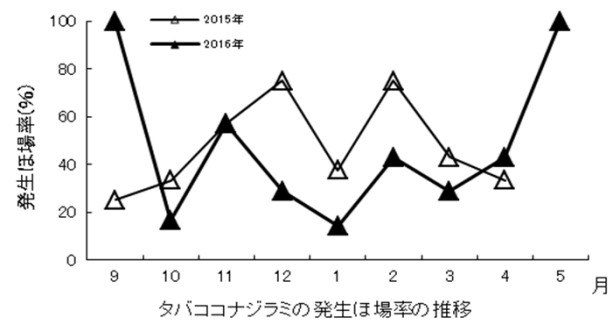
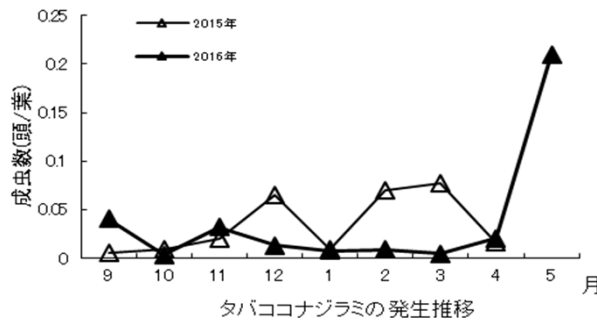
発生量の根拠（調査結果）

- ・ 1月下旬の調査の結果、葉当たり成虫数は0.01頭(前年0.01頭、平年0.02頭)と平年並であった。

(今年のデータ)



(過去2年のデータ)



防除のポイント

- ・ 本種はトマト黄化葉巻病を媒介する。
- ・ 多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・ 施設開口部には目合い0.5mm以下の防虫ネットを展張し、本種の侵入を防止する。
- ・ 黄色粘着テープ等により、早期発見・早期防除に努める。
- ・ 幼虫は下位葉の葉裏に多いことに留意しながら薬剤散布を行う。